発展と教育のためのキリスト教機関（CODE）

ニュースレター　2019 年 12 月号

親愛なる里親の皆さま
インドの「発展と教育のためのキリスト教機関（CODE)」より、ご挨拶申し上げます。

クリスマスと新年がすぐそこまでに迫り、あと数週間を残すのみとなりました。2019 年を迎えた時には、この年がどのような年となるのか予想だに出来ませんでした。しかし、今、この年を終えようとするにあたり、この年がわたしたちの団体、学校、そしてわたしたちにとって、将来にわたって忘れられない年であり続けることは間違いないと思わされています。

2019 年 5 月 3 日までは通常通りの日々でした。しかし、その 5 月 3 日､驚異的なサイクロンがわたしたちの町を破壊し、わたしたちの学校、そしてナオミ･ビルディングをも損壊させました。前回のニュースレターでもお伝えしたように校舎の損壊があまりにもひどく、もう二度と立ち上がり開校することは出来ないと思わされました。建物と共に学校の備品、そして子どもたちのおもちゃまでもが強風と豪雨により押し流されてしまいました。けれども、わたしたちの主からの慈しみは限りなく、再建、復興工事は大変順調に進み、ナオミ･ビルディングの工事も含めて全工事が数週間のうちに、クリスマスまでには完了する予定です。

このようなことが起きたのは里親の皆さん、キリストにある兄弟姉妹、とりわけ日本のバプテスト教会の方々、そして、わたしたちのスタッフと家族みんなの祈りがひとつとされた故です。しかしこのニュースレターを書くにあたり、わたしの中に疑いがあったことを告白せねばなりません。

神の力を信じ、祈りの力を幾度となく経験しているにも関わらず、サイクロンによる校舎の甚大な被害を目の当たりにした時に、校舎再建のための多大な資金を集めることが祈りによって本当に出来るのかと心に疑いの思いがあったのです。わたしは日々のディボーションの時、そしてスタッフと、また家族とそのために祈っていましたが、そこまで莫大な額が果たして集まるだろうかと疑いの気持ちがありました。しかし、そのような思いが心の中でうず巻いていたある日、松本素代美姉、小林洋一先生、エイカーズ愛先生、そして多くの兄弟姉妹らより、学校再建のために祈っていること、そしてそのために神さまは祈りに応え、必要なものを主を信じて従う者らを通して備え、再建は必ず成し遂げられると言ってくださったのです。

わたしは疑いがあったことを悔い改め、神に赦しを請いました。その時より、神は必ずわたしたちの祈りを聴き、わたしたちの必要を満たしてくださると信じてきました。そして祈りは聞かれました。再建事業はわたしたちにとってまさに信仰の旅となりました。すなわち、わたしたちの必要は神が満たしてくださること信じて、神に委ねて進む旅路となりました。

感謝なことに、そして驚くことに、里親の皆さんや他の寄付者の皆さんからの多大なご支援により学校の再建修繕工事に必要な資金はほぼ満たされました。お捧げくださった皆さんからの支援は、神がこの学校の復興と日常を取り戻す只中にいてくださるということの強い証です。親愛なる主よ、あなたの真実の愛と慈しみに感謝します。里親の皆さん、寄付者の皆さん、皆さんからの支援を通して、わたしたちの学校が再開できるようになったことを心から感謝します。

独立記念日

8 月 15 日にプリ･キンダーガルテンスクールではインドの独立記念日をおぼえました。生徒たち、保護者、そして先生たちもこのお祝いに加わりました。プリのインナー･ホイール（Inner Wheel−ロータリクラブの女性版〔訳者〕）やシュリ･ジャガナス･ダーム（Shri Jagannath Dham)･ロータリークラブの多くの方々が参加してくださり、子どもたち全員にお菓子やスイーツなどをくださいました。インドの国旗が掲揚され、子どもたちが校長先生の短いスピーチの後、愛国的な歌をいくつか歌いました。

ティーチャーズ・デー

インドでは 9 月 5 日はティーチャーズ・デーとしてすべての学校、大学、教育関連施設で特別なプログラムが行われています。このような機会に生徒たちは常日頃から子どもたちの未来形成のために全情熱を傾けて働いてくださっている先生方に感謝を表す時です。子どもたちはそれぞれ、お花や小さな贈り物を持ってきて先生に渡しました。また、この日はインドの独立後の大統領の一人で偉大な教育者であったサルヴパッリー· ラーダークリシュナン（Sarbapali Radhakrishnan）博士の誕生日としても国中でお祝をします。

植栽クラス

「野とそこにあるすべてのものよ、喜び勇め　森の木々よ、共に喜び歌え」（詩編 96 編 12 節）。この聖書箇所と環境を守る必要からの動機づけを得て、わたしたちの学校では新しく「環境と植栽」クラスを始めました。

子どもたちが幼い頃から自然を愛するように動機づけをする、との狙いがあります。このクラスの取り組みを通して子どもたちは植栽の大切さと、森林がわたしたちの環境に有用であることを理解するようになります。

クラスでは、小さな植木鉢、土、苗木がそれぞれの子どもたちに配られ、先生から植木鉢や庭に植物がどのように植えるのかを見せてもらいます。その後、子どもたちは先生の手助けを得て、土と有機肥料を混ぜ、それを植木鉢に入れ、それからそれぞれに手渡された苗木を植えます。そして、最後にそこに水を注ぎます。クラスが終わる前に子どもたちは自分で植えた植木鉢を受け取り、それぞれの家に持ち帰り世話をします。保護者には必要に応じて子どもたちが植物に水をやるのを手助けするように通知しています。

子どもの日のお祝い

11 月 14 日は、インドでは子どもの日として歌や踊り、振付つきの歌などによる文化発表会をもってお祝いしています。この日は子どもたちを愛してやまなかったインドの初代首相故ジャワハルラール· ネール（Jawaharlal Nehru）を記念する日でもあります。ゲームやダンスの後に、特別なおやつや飲み物が子どもたちに配られ、風船をお土産に持ち帰りました。

校内用の新しい自転車

サイクロンで学校の自転車はほぼすべて壊れてしまいました。皆さんにお祈りいただく中で新しい自転車を購入することが出来ました。子どもたちの顔に笑顔を戻してくだった寄付者の皆さんに心からお礼を申し上げます。

修繕と壁の塗装作業

校舎の修理作業が終わりましたので校舎と境界線塀などの塗装作業を始めました。神よりの恵みと皆さんの祈りにより、プリ· キンダーガルテンスクールの修繕工事は最終段階にさしかかっています。

生徒たちへの服の配布

プリ· キンダーガルテンスクールの子どもたちは貧しい家庭の子どもが多く、ほぼ全員がサイクロンで服を失ってしまいました。そこで 9 月 5 日の「ティーチャーズ・デー」のお祝いの後に子どもたちと両親に服を配布しました。

制服のセーターの配布

サイクロンによりほぼ全員の子どもたちが制服とセーターを失くしてしまいました。そこで今年、全員に新たな制服一式と一緒に制服のセーターも配布しました。

古着配布プログラム

大変うれしいことに2019年には、これまでにない多くの方々が、その手間をいとわず、インドの貧しく助けを必要とする人々に配布する古着を送ってくださいました。(2020年1月1日現在到着分まで)

洋光台キリスト教会　1箱、常盤台バプテスト教会　3箱、富士吉田バプテスト教会　8箱、石橋彰子　1箱、嬉野キリスト教会　3箱、浜松バプテスト教会　1箱、多良見キリスト教会　3箱、湯川瓔子　2箱、神戸西バプテスト教会　1箱、佐賀キリスト教会　3箱、豊橋バプテスト教会　1箱、西南幼稚園（石橋彰子様方）2箱、小樽バプテスト教会　3箱、浦和キリスト教会　1箱、筑紫野南キリスト教会　1箱、向山三千代　3箱、長崎バプテスト教会　1箱、西川口キリスト教会　1 箱、小原久世　1 箱、札幌バプテスト教会　1 箱（順不同、敬称略:訳者）

古着配布プログラムは年間を通して行っていますが、冬服の配布は11月最終週から始めました。わたしたちのチームはスラム、電車の駅、バスターミナル、学校をいくつか訪問し、古着を配りましたが、その際に他のキリスト教団体にも協力いただき、必要のある学校の生徒と家族にも配布していただきました。強力な破壊力をもったサイクロンの後、おもちゃも壊れてしまったので、皆さんに学校のためにおもちゃを送っていただけませんかとお願いしました。大変感謝なことにいくつかの日本のバプテスト教会と里親の方々が沢山のおもちゃを送ってくださいました。それらはすべて学校で使用することにしました。
子どもたちは沢山のおもちゃで遊べることをとても喜んでいます。

里親の皆さん、バプテストの女性会の皆さん、そして日本の教会の皆さんにお願いがあります。2020年5月に新しい年度が始まりますが、その時に生徒たちに配れるように学校で必要な物を送っていただけませんか。必要としているのは以下のものです。

クレヨン、色鉛筆、えんぴつ、消しゴム、ノート、えんぴつ削り、３，４，５，６歳児用の黒い靴下、ウール製などの暖かい帽子、動物、鳥の塗り絵の冊子、せっけん、ペン、英語が学べる数字、アルファベット、動物の名前のドリル、大小のタオル、頭に巻くスカーフ、白のチョーク、おもちゃ（人形、車、バス、飛行機、船など）風船、ペーパータオル、安全ピンなど。

クリスマスは、もうすぐそこまで来ています。そしてこの季節は人に与える時です。もし皆さんのお友だち、ご家族、同僚の中に里親として加わりたい、

もしくは一度限りの寄付をインドで支援を必要とする子どもたちに、という方をご存知でしたら、どうぞ、里親の会代表の松本素代美さんにご連絡ください。
住所：〒852-8132　長崎市扇町 28-18
メール：　taiyo-hoshi@tune.ocn.ne.jp
電話：090-7925-3703
ご連絡いただければ喜んで必要な情報をお伝えし、ご一緒にインドの支援を必要とする子どもたちに仕える輪に歓迎してくださいます。

このニュースレターを締めくくるにあたり、改めて里親の皆さん、寄付者の皆さん、友人の皆さん、お一人おひとりに、わたしたちの働きのために多大な支援をし、祈りのうちにわたしたちを支えてくださったことに感謝をしたいと思います。特に日本の里親の会の皆さんが本当によく働きかけてくださり、サイクロンの後に、もう一度学校を開くことが出来るように祈り励ましてくださったことに感謝しています。皆さまが引き続きわたしたちの働き、とりわけ子どもたちとスタッフのためにお祈りくだされば幸いです。子どもたちもスタッフも元気にしていて、皆さんが良いクリスマスと新年をお迎えくださいますように、よろしく、とのことです。

※ニュースレターが届いたのが待降節の最中で翻訳作業が遅れましたことをおゆるしください。（訳者）

ディレクター
S.K.モハンティ
わたしたちの連絡先
住所　Christian Organization for Development and Education.
Naomi Building, Station Road, Puri 752002, Odisha, INDIA
メール　childrenshomepuri0@gmail.com
電話　00-91-6752-224978　携帯＋91-9437114996

プリをご支援くださっている皆様

2020 年を迎えました。昨年は途方にくれた時、神様が行動を起こしてくださり、皆様に働きかけてくださいました。皆様のお祈りとお支え心より感謝申し上げます。インドの状況は依然として厳しいものがありますが、今年も神様に信頼して歩みを続けさせていただきたいと祈っています。サイクロン支援の会計報告も後日監査を受けたのち皆様にご報告させていただきます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。　2020 年 1 月 3 日

プリキンダーガルテンスクール里親の会
世話人会代表　松本素代美